

Book Review



阿部二郎の総義歯難症例 誰もが知りたい臨床の真実

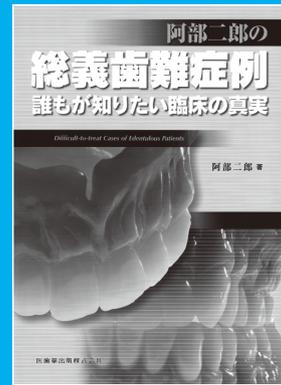
阿部二郎 著



Reviewer

齋藤善広 Yoshihiro Saito
(仙台市・くみ野さいとう歯科医院)

A4判, 222頁
定価 (11,000円+税)
医歯薬出版刊



阿部二郎先生は、誰もが知っている「下顎総義歯の吸着」を理論化した日本を代表する歯科医師である。「下顎総義歯の吸着」は1999年に発表されて以来、国内は元より、現在では世界中で注目されるテクニックとなっている。その背景として、総義歯に関わるトピックがここ数年、いや数十年の間、ほとんど注目すべき進歩がなく、すぐれた臨床家によるナラティブな製作法伝授に留まっていたからのように思われる。

本書は、阿部先生が難症例の解決策をまとめた珠玉の一冊である。阿部先生が臨床現場でこれまでに遭遇し、解決策を見出して対応した経験が論理的にまとめられている。

○難症例とは何か？

前半の白地のページは、「難症例とは何か」「どのように解決するのか」「患者満足度の評価は？」といった総論的な内容となっている。特に難症例の定義についての記載は、阿部先生の考えが明文化されおり、読者が思わず頷いてしまう内容であろう。

○総義歯はアートだ！

また、小久保京子さん(歯科技工士)とともにBPS国際クリニカルインストラクターとして活躍されていることもあり、「吸着とBPSによるアプローチ」を含め、本書には世界最高峰の素晴らしい完成義歯の写真が掲載されている。もはや義歯というだけでなくアートであると言いたい。これらの義歯は、多くの歯科医師と歯科技工士にとっての目標となるに違いない。

○困ったときに再び開く

後半の黒地のページは、具体的な19の症例が提示されており、各症例の問題点とその対応が明確に記載されている。読者が難症例に遭遇したとき、それぞれの抱える難症例に近いものを選んで熟読することで、きっと解決の糸口が見えてくるはずである。そういった使い方こそ本書を上手に活用する方法になると思われる。

そして、阿部先生は「総義歯はインプラントオーバーデンチャーには適わない」、「すべての難症例が解決できるわけではない」ということも明言しており、さらに阿部先生は優れた臨床家

で、素晴らしい臨床センス、深い洞察力、考察力、論理力を持ち合わせている稀有な存在であるにもかかわらず、難症例の克服には、優れた技術も然ることながら、医院づくりを含めたコミュニケーションが必要であり「つよい仁の心が患者を救う」としている。だれもが臨床家として見習いたい部分である。

○難症例でこそ吸着を

本書で提示されている難症例は、吸着総義歯をベースに解決されている。下顎総義歯の吸着は、非常にシンプルなステップで実現が可能でありながら、その理論的な背景に触れるたびに、総義歯の奥深さを感じさせてくれる。吸着総義歯が完成し、患者の満足が得られたとき、多くの術者が独特の達成感「吸着の魔法」を味わっている。吸着が、総義歯の総合力を確実に向上させていると実感できる瞬間である。そして本書は、難症例でこそ吸着総義歯が有効であることを示している。一度吸着を達成すれば、どの症例でも吸着させなければ気が済まない、あなたも吸着マニアになっているに違いない！